

ボランティア
第21次

東日本大震災救援募金のお願い

日本共産党

石巻市へ **ボランティア募集 支援物資も**

日程 12月10日(木)夜 発着
12月13日(日)pm 着

救援募金 **493万円** ご協力に感謝します

すでに大震災から4年半以上たちました。しかし、石巻市周辺では復興住宅の建設は半数程度で、まだ仮設住宅で暮らす方が沢山います。これから寒い冬を迎えます。仮設住宅は通常2～3年が建物としての限度です。
今回のボランティアは、仮設住宅で、とん汁の炊き出しをします。暖まってもらえたら嬉しいかぎりです。
年内最後の節目のボランティア活動となります。

支援物資はすべて現地にお届けしました。募金は、お米や野菜、炊き出しの材料、業務用ガス炊飯器の購入、物資輸送のレンタカーや宅配便などで活用しています。引き続き、米、野菜、日用品を中心に仮設住宅へお届けします。

この間20次にわたり151名が石巻市を中心にボランティアに参加しました。
支援物資の提供は468人の方から寄せられました。

今回お願いしたい救援物資
お米、洗濯洗剤、石けん、タオル、おもちゃ、ぬいぐるみ、下着・靴下など

募金、物資提供など、ご連絡
いただければお伺いします。
整理の都合上 12月6日まで受け付けます

港地区委員会 TEL 3455-0051

FAX 3455-0054
メール jcp_minato@ybb.ne.jp

港区議団 TEL 3578-2945

FAX 3578-2947
メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp



④仮設住宅で物資の届け、聞き取り
⑤牡鹿半島でカキ養殖の前作業
(第20次ボランティア)

みなと民報

2015年冬号外 日本共産党港地区委員会は東日本大震災へのボランティア参加を呼びかけると発表しました。発行 みなと民報社/海岸2-4-12/責任者/栗橋伸次郎

第20次ボランティア報告 石巻、牡鹿半島で活動 日本共産党港地区委員会

7月9日から12日、第20次ボランティアへ4名が参加しました。

7月10日の4時30分には矢本に到着しました。野蒜(のびる)駅は高台に移転・再建されました。

日和山をよると、高齢者グループが体操をしていました。

「いっしょにやらない」と声がかかり、気持ちよく体をほぐしました。この場所で体操にであつたのは初めてです。

救援物資の届け、聞き取り

午前は、渡波(わたのは)の第二仮設住宅で、救援物資を届け、要望を聞き取りです。半数以上が空家です。復興住宅に移った方、息子さんのところへ転居した方、自分で家を再建した方もいます。

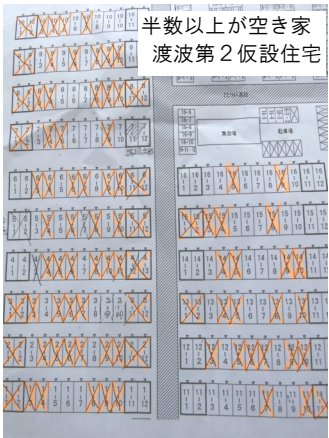
住民からは、「肝臓ガンが見つかり、この仮設で人生を終わるかもしれない」などの深刻な声も寄せられました。

移動図書館も来ていました。子どもたちにも喜ばれる図書館です。

公営住宅 矛盾たくさん

午後は、東部地区委員会復興にむけての現状と課題を聞き取りました。7月時点での聞き取りです。

公営住宅への転居が始まりました。800戸移っている。転居し



半数以上が空き家
渡波第2仮設住宅



移動図書館



女性の漁師さん



うこと
す。なん
でこうな
るのでし
うか。

体操会 日和山



ホタテ貝を数珠のように

た方は「良かった。ようやく新しい生活ができる」との

声を上げている。その一方、となりの人が誰かわからず、会話がな

いに会いにいって話している。「ミニニティをまったく配慮しない公営住宅への入居だからだ。石巻市は被災状況が甚大だったので、集落ごとの入居計画ができなかった。

また、仮設住宅は家賃は無かったが、公営住宅では、2万円から高い方だと7万円という家賃にもなる。被災者は様々な理由で税金を払えない方もいる。滞納していると公営住宅に入れないのだ。

震災後家族が別居するケースもあった。4年以上が経過して離婚した方もいる。そうになると、一人しか被災者としての支援が受けられない。なんとという矛盾した制度か。早急な制度の改善が求められる。公営住宅建設は、まだまだ建設がおくれている。――課題は沢山あります。

カキ養殖 事前作業

11日は、牡鹿半島でカキの養殖をするための事前作業です。ホタテ貝を串に刺していきます。半分までは下向きに、半分以後は上向きに。それを二つに折ると全部下向きになります。それを4つに合わせます。



作業後の山です。

カキの種を付けてから、これを長くロープを横にはって次々とぶら下げる感じで海に入れます。こうやってカキを育てます。

作業終了後は、民宿後山荘で夕食交流です。この宿は、以前にも報告しましたが、海の幸が、たくさんです。低料金です。豪華舟盛りもできます。この宿も津波で被災し高台に再建しました。

7月12日は、再度救援センターにもどりまし。

牡鹿半島「気まぐれ浜」

移動中、例の「気まぐれ浜」です。たまたま立ち寄る浜のことです。思わぬ出会いもあります。今回は牡鹿半島の浜です。

カキの養殖作業をしている方に声をかけました。女性の漁師さんです。夫を亡くされたそうです。作業も手際よくこなしています。

明かり採りの窓も無い

午前の短時間、復興公営住宅に入居した方を訪問し、実態や要望を聞き取りました。

新蛇田(へびた)復興住宅です。ある方は、「新築の綺麗な家だが、狭くて仏壇もどこにおいたらいいかわからない。部屋の中にしっかりと明かりを採れる窓が無い、部屋は1Kなのだが居間とキッチンに間仕切りが無いので、冷暖房費が高くなってしまふ」。住む方の立場での設計ではなかったとい